



北海道
教育委員会

2025年9月12日（金）

令和7年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業」
（普通科改革支援事業）

指定校発表会

北海道教育庁学校教育局高校教育課
北海道岩見沢東高等学校

目 次

I 北海道岩見沢東高等学校（令和5～7年度指定校）の取組について

II 令和4年度～6年度指定校の現況について

- 北海道釧路湖陵高等学校
- 北海道大樹高等学校

I 北海道岩見沢東高等学校（令和7年度指定校） の取組について

新設校1年目の状況（令和7年度）

※ 現在、全日制と定時制とは、別校舎に通学。
令和9年度から同一校舎

3 学年

旧東高
④クラス

特進
クラス

旧西高
③クラス

定時
4年

定時
3年

2 学年

旧東高
④クラス

特進
クラス

旧西高
②クラス

定時
2年

1 学年

文理探究科
②クラス

普通科
④クラス

定時
1年

単位制普通科

旧西高校舎

旧東高校舎

【北海道岩見沢東高等学校】学際領域学科（令和7年度設置）

目的

- 外部の機関等の協力のもと学際的、複合的な最先端の学問分野の知見に基づく探究的な学びに取り組むことにより、予測困難なこれからの社会の持続・発展に寄与する知識、技能、態度を身に付けた生徒を育成する。
- 総合的な探究の時間や学校設定科目を核としたカリキュラムマネジメント及び教育プログラムの開発に取り組むことにより、地域の期待に応える高校づくりを進めるとともに、本道における普通科新学科校のモデルとなる。

現代的な諸課題を自分事としてとらえ、地域から世界の諸課題へ段階的に学びを発展させる探究学習

GANTO BASIS

空知や北海道における課題と現代社会における諸課題のつながりを理解するとともに、自ら課題を設定し、様々な手法を用いて探究に取り組む。

➤ 学校設定科目の開設

- 探究学習を支える最新アプローチの習得
- ・「探究基礎」
データの収集分析や思考・表現の方法
- ・「探究応用」
データサイエンス等の理解と応用

GANTO PROGRESS

身に付けた力を地域の課題解決に向けた探究学習に応用し実践するとともに、国内や海外の諸課題など、さらに視野を広げて探究に取り組む。

探究学習の充実

➤ 学際的な学びの実現

- 柔軟な教育課程と学校間連携
- ・類型にとらわれない教育課程の編成や、コンソーシアムを活用した学際的な学びの充実に向けた連携協力体制の構築

GANTO PRIDE

探究的な学びで得られたものを自分自身の将来の生き方・在り方につなげ、進路希望に応じた課題を設定し個人で探究に取り組む。

➤ グローバルな視野を育成する学び

- 異なる文化をもつ多様な他者との学び
- ・大学の留学生など北海道内に在住する外国人等を活用した学び
- ・ICTを活用した海外の高校生等との協働的な学び

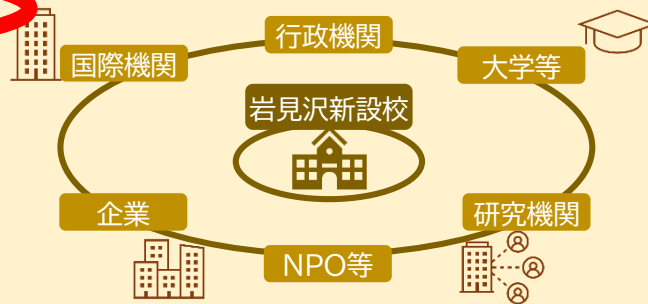
特色・魅力ある教育の概要

令和7年
統合新設校
開校

生徒を育成する魅力ある新学科の開設
発見・解決し、新たな価値を創造できる
我が国や国際社会の問題や課題を

コンソーシアムの構築方法

これまでの探究学習、進路指導等でつながった関係機関（連携協議会）を核として、本校同窓会及び地域の行政機関の協力を得ながら、市内の他校とも連携し、岩見沢市内の高等学校における教育の発展・充実に資する連携協力体制の構築を目指す。



コーディネーター

コーディネーター

地元で高い目標を実現

「i スクール」プラン

普通科文理探究科

新学科では、学校設定科目等での質の高い探究に取り組み、課題解決等の能力を身に付けます
— 難関大学等へ進学し将来社会で活躍する人を目指す —

普通科普通科

普通科では、総合的な探究の時間等で探究を深め、
思考力・判断力・表現力等を育みます
— 大学等への進学後や就職後に社会で活躍する人を目指す —

知識・技能の定着

授業とICT



ICTの活用



学校祭 行灯行列

自分の強みを
部局活動で発揮



野球部全校応援

探究学習

【総合的な探究の時間・キャリア教育】

地域を知る

1年次

地域巡検・JA農業体験

地域に飛び出す

2年次

海外研修・グループ探究

世界に飛び出す

3年次

志望する学問の課題研究

創造力と深い学び

【「探究基礎」「探究応用」】



イベント企画



卒論制作



データサイエンス学習



大学生との学び
(道教大岩見沢校等)

探究ルーム設置 (文科省DXハイスクール事業申請中)

地元の生徒を支える
心強いサポーター

コンソーシアム

岩見沢市 岩見沢市教育委員会 岩見沢商工会議所 岩見沢青年会議所 空知信用金庫
北海道教育大学岩見沢校 北海道大学 北海道医療大学 弘前大学 吉田学園 北海道教育委員会
大地会 (同窓会) エミプラスラボ ベネッセコーポレーション JICA 北海道国際交流・協力総合センター
＜岩見沢市内・南空知圏域の企業・団体・関係機関等：50事業所＞



「新設校」のページ
にてご覧ください。

本校の総合的な探究の時間(令和5～7年度)

「潜在能力（Capability ケイパビリティ）を掘り起こす」プログラム

○プログラムの流れと内容

「リーダーとしてよりよい社会の形成に貢献するための知性と実践力を備えた生徒の育成」

1 年次

「GANTO BASIS」

地域(空知・北海道)を知る

2 年次

「GANTO PROGRESS」

地域(空知・北海道)に飛び出す

3 年次

「GANTO PRIDE」

日本・世界に飛び出す

探究学習

R 5

R 6

R 7

1 年

地域探究（フィールドワーク）

- ・ 地域探究
（フィールドワーク）
- ・ 個人探究活動

2 年

地元企業との
課題研究

学校が企業に依頼

地元企業との
課題研究

生徒グループが
企業に依頼

地元企業との
課題研究

企業が
生徒の課題から選択

3 年

個人探究
（個人活動：進路希望学部）

- ・ 個人探究
- ・ 卒業論文

探究学習

2 年次

地域事業者との課題研究

【「岩見沢市総合計画 基本目標」の達成のために】



(1グループ4～5名、市内51事業所)

探究学習

3 年次

自らの進路に直結する課題に関する 調査・研究

【2 1 の学問領域】

人文学系 社会学系 教育学系 外国語学系 芸術学系 スポーツ学系 法学系
経済学系 経営学系 理学系 心理学系 工学系 情報学系 ファッション
工学系 医歯学系 看護学系 健康/保健学系 福祉学系 食品/栄養学系
農業・動植物・環境学系 観光学系

探究課題

- ・なぜ病院食はまずいのか？
- ・なぜ九九の7の段は難しいと感じるのか
- ・音楽で地域を活性化するには
- ・フットボールの世界でレフェリングの全自動化は実現するか
- ・自転車に乗っていると自動車に劣等感を抱くのはなぜ
- ・虹の上を歩きたい

探究学習：学びの機会の拡大

R 5

道内外での探究合宿（高校、関西学院大学）

地域イベントへの**参加・協力**
（市観光協会、北海道教育大学）

R 6

教職インターンシップ（市内小・中学校）
北海道大学病院 救急部体験実習

岩見沢市職員によるワークショップ（地域課題の共有）

市内 4 高校合同
データサイエンス講座
（岩見沢市、北海道大学、
北海道教育大学、日立製作所）

R 7

地域イベントの**企画**
（北海道教育大学）

I C T 講座：創作体験
（データサイエンス）
※ D X ハイスクール事業

学校コーディネーター (R5.10～)

瀬尾 洋裕 氏

- ・ 北海道教育大学大学院
岩見沢校 卒業
- ・ 岩見沢市地域おこし推進員
(R2.5～R5.4)
- ・ 岩見沢市地域支援員 (R5.4)
- ・ 学習塾経営



探究 岩見沢東高校 サポーター募集中!

現在、高校の教育課程で必修化されている「総合的な探究の時間」のサポートを通して、学校現場を肌で感じてみませんか?

～募集要項～

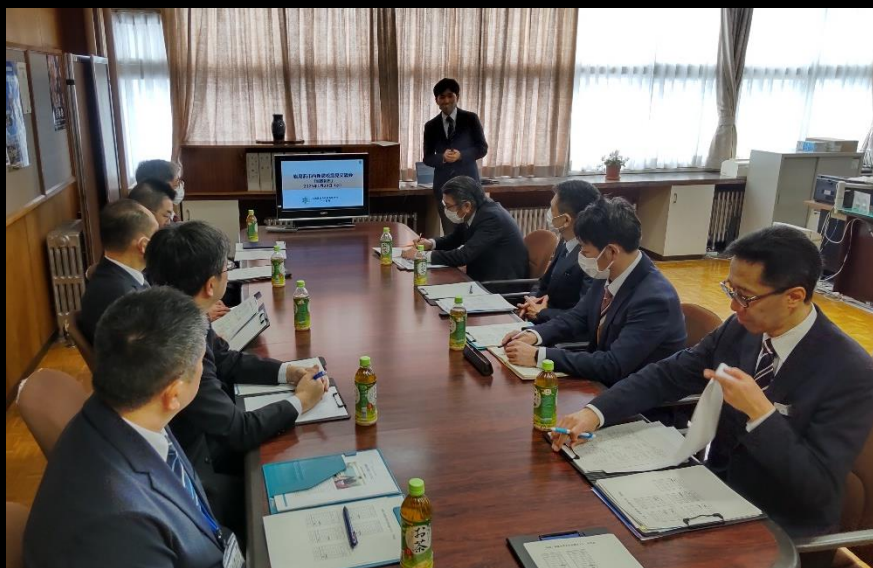
- ・ 内容：調べ学習やレポート・論文作成のサポート
- ・ 活動時間：R6年度 毎週月・木 14:00～16:00
- ※ご都合に合わせて参加いただけます
- ・ 活動場所：岩見沢東高校
- ・ 活動形態：ボランティア

～こんな経験が積めます!～

- ・ 過渡期を迎えている、教育への理解を深めることができます。
- ・ 学校現場を肌で感じることができます
- ・ 地域学習を通して、岩見沢のことをさらに深く知ることができます
- ・ アカデミックスキルの実践やアウトプットの機会になります

応募・問い合わせ：岩見沢東高校 教育コーディネーター 瀬尾まで
080-6934-6828

【小・中学校との連携（授業改善）】



岩見沢市内小・中学校管理職の
授業参観・意見交換会

国際理解教育

R 5

R 6

R 7

- ・ A L T による授業
- ・ 道教委「Hokkaido Study Abroad Program」

探究旅行
(台湾・希望者)

探究旅行
(台湾・希望者)
日本語指導体験

探究旅行 (オーストラリア・希望者)

探究旅行 (台湾)
文理探究科 1 年
全員参加

岩見沢市・米国ポカテロ市 姉妹都市派遣
【1 名派遣】 → 【2 名派遣・受け入れ 1 5 名】

国際理解教育：海外探究研修

台湾（1年生希望者から選抜）

- ・ 現地大学生との交流：6名参加者選抜（現地大学生による学習プログラム）
- ・ 市内施設見学（新竹サイエンスパーク等）
- ・ 校内選考試験を通過した7名が参加
- ・ 3月（4日間）



**新設校
文理探究科**

オーストラリア【アデレード】 （2年生希望者から選抜）

- ・ 現地高校の授業参加。高校生との交流
- ・ 生徒2人1家庭のホームステイ
- ・ 校内選考試験を通過した7名が参加
- ・ 3月（10日間）

**台湾
探究研修
旅行**

成果：進路実績

令和7年度大学等入試 実績

医学科

道外へ

- ・国公立大学合格 112名

東京、北海道、札幌医科、旭川医科、小樽商科、
北海道教育大学、室蘭工業、帯広畜産、
弘前、東京学芸、東京都立、千葉、信州、広島 他

- ・私立大学合格 292名

早稲田、慶応、明治、法政、中央、東京理科、
岩手医大、北里、立命館、道内私大 他

- ・防衛医科大学 1名

- ・公務員（東京消防庁、道職員等） 9名

成果：進路実績

令和7年度大学等入試 実績

リーダーシップ

- ・国公立大学合格 112名

東京、北海道、札幌医科、旭川医科、小樽商科、
北海道教育大学、室蘭工業、帯広畜産、
弘前、東京学芸、東京都立、千葉、信州、広島

- ・私立大学合格 292名

早稲田、慶応、明治、法政、中央、東京理科、
岩手医大、北里、立命館、道内私大 他

- ・防衛医科大学 1名

- ・公務員（東京消防庁、道職員等） 9名

成果：PTA活動

「令和7年度優良PTA文部科学大臣表彰」

- ・ 広報活動：卒業写真集制作
- ・ 学校行事支援：
 学校祭バザー
 行灯行列交通安全指導
- ・ 学校美化：花壇づくり
- ・ 研修：研修旅行



成果：生徒による学校づくり

校旗制作プロジェクト



IWAMIZAWA HIGASHI
HIGH SCHOOL

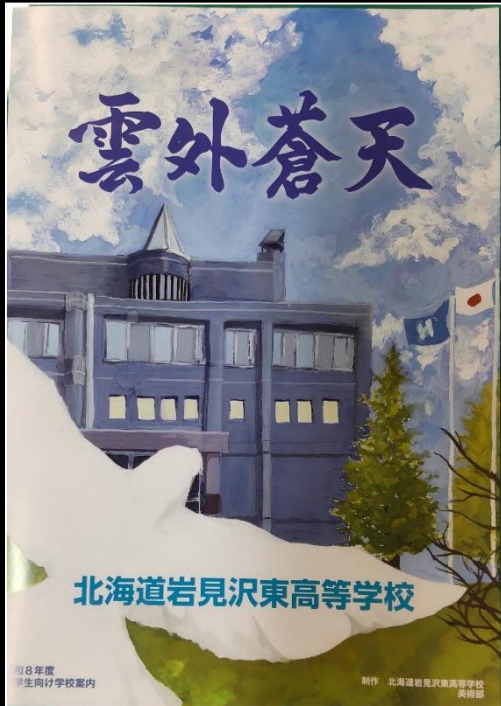
- ① デザイン公募（全校生徒から）
- ② 1次選考（5案）
- ③ 北海道教育大学岩見沢校の指導による図案化
- ④ 最終選考



成果：生徒による学校づくり

「雲外蒼天」

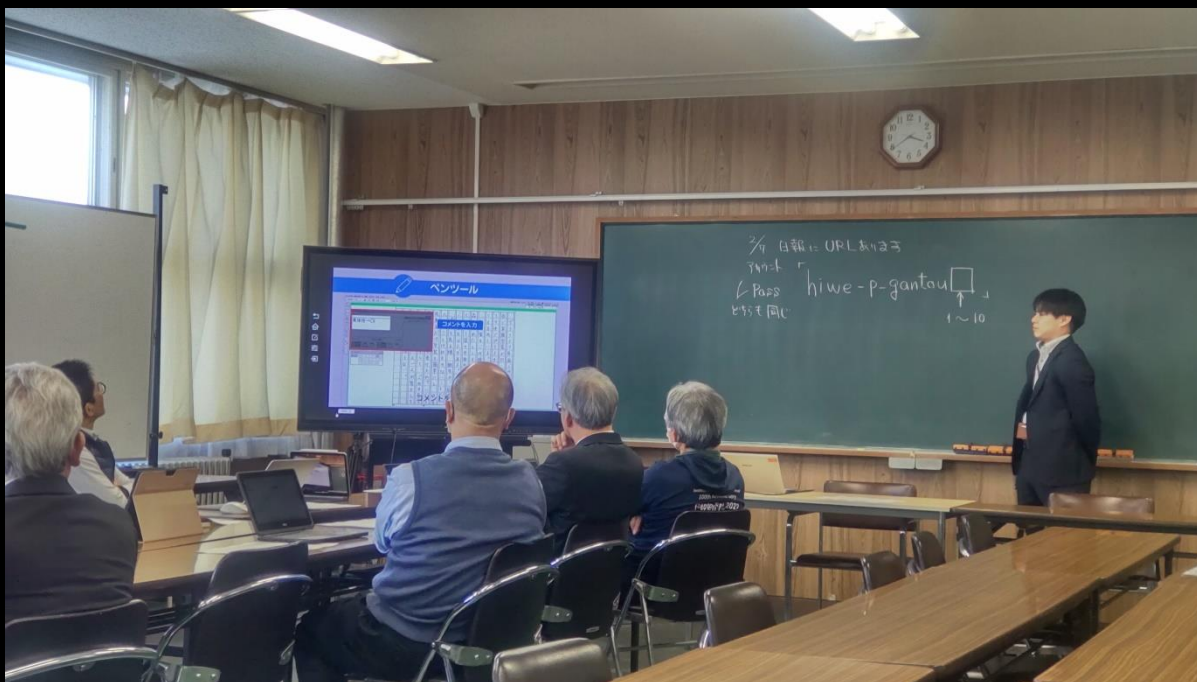
「校訓」から「スクール・スローガン」へ
(生徒から公募し、投票による選考)



困難を試練を
乗り越えた先に、
明るい未来や希望が
待っている。

今後について

【働き方改革に向けた取組】



自動採点システム導入に向けた業者説明会

今後について

高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）

令和5年度補正予算額

100億円



現状・課題

大学教育段階で、デジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が必要

事業内容

情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校などに対して、そのために必要な環境整備の経費を支援する

- 支援対象：公立・私立の高等学校等
- 補助上限額：1,000万円/校（1,000校程度）
- 補助率：定額補助

○求める具体の取組例

- ・情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の履修推進（遠隔授業の活用を含む）
- ・情報・数学等を重視した学科への転換、コースの設置（文理横断的な学びに重点的に取り組む新しい普通科への学科転換、コースの設置等）
- ・デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びの実施
- ・デジタルものづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進
- ・高大接続の強化や多面的な高校入試の実施
- ・地方の小規模校において従来開設されていない理数系科目（数学Ⅲ等）の遠隔授業による実施
- ・専門高校において、大学等と連携したより高度な専門教科指導の実施、実践的な学びを評価する総合選抜の実施等の高大接続の強化

○支援対象例

ICT機器整備（ハイスペックPC、3Dプリンタ、動画・画像生成ソフト等）、遠隔授業用を含む通信機器整備、理数教育設備整備、専門高校の高度な実習設備整備、専門人材派遣等業務委託費 等

成長分野の
担い手増加

デジタル等成長分野の学部
・学科への進学者の増



- ・大学段階における理工系学部
・学科の増
- ・自然科学(理系)分野の学生割合5割目標
- ・デジタル人材の増

【事業スキーム】

文部科学省

補助

学校設置者

（担当：初等中等教育局参事官付（高等学校担当））

今後について

【探究ルームの設置】



R 9 年度：増築棟（中庭）

Ⅱ 令和4年度～6年度指定校の現況について

北海道釧路湖陵高等学校



【基本データ】

- 全日制 生徒数630名
- 令和5年度入学生まで 普通科・理数科
- 令和6年度入学生から
学際領域学科として「文理探究科」（定員160名）設置
- 学校設定科目「K Q（Koryo Quest）」
 - ・文理探究科第1学年において3単位実施。
 - ・探究のプロセスを身に付けるプログラム（マシュマロチャレンジ、力学の探究、化学の探究など）
地域創生に関わるプログラム、フィールドワークに関わるプログラム、講演会、出前講座 など
 - ・総合的な探究の時間（第2学年2単位、第3学年1単位）における探究活動の基礎を学習

【北海道釧路湖陵高等学校名】学際領域学科（令和6年度設置）

【設置の目的】

- SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴う諸課題に対応した、学際的・複合的な学問分野等の最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組むことにより、生徒が将来の国際社会及び日本社会で求められる資質・能力を育成すること
- 探究的な学習を重視したカリキュラム及び教育方法の一層の改善・充実に取り組むことにより、普通科を含めた他学科における「総合的な探究の時間」など探究的な学習の充実に向けて牽引・先導する役割を担うこと

【令和6年度の目標】

- コンソーシアムを活用し、個別の探究活動と関係機関との連携体制の強化
- 同事業指定校との情報共有と連携体制の構築
- 学校説明会・中学校訪問に係る広報活動
- 教育課程の工夫・改善
- 事業成果の適切な評価の実施
- 事業終了後の自走できる校内体制の構築

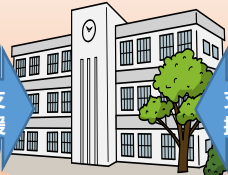
【関係機関との連携・協働体制の構築】

コンソーシアム「チーム湖陵」

プロモーター

釧路市内の企業・団体・高等教育機関等で構成

支援



サポーター

道内外の研究機関・高等教育機関で構成

支援

コーディネーターを中心に、生徒の探究活動に対応する多種多様な大学、国の機関、自治体、事業所、研究機関等とのコンソーシアムを活用(プロモーター25団体、サポーター31団体が参加)

【主な取組】

- 探究的な学習における「チーム湖陵」による専門的な助言
- 先進校視察及び視察校の受け入れの促進
- 学校案内・学校説明会の工夫・改善
- 教育課程の工夫・改善
- 評価方法の工夫改善
- 組織改組と「校内コーディネーター」の指名

【成 果】

- 生徒の探究活動における「チーム湖陵」との連携
 - ・ 探究的な学習における専門的な視点からの助言・指導体制の構築
- 同一事業実施高校との視察等を通じた連携体制の構築
 - ・ 視察校受け入れ、コーディネーター研修を通じたネットワークの構築
- 外部講師を活用した各種講演会・講話による生徒の思考力の育成
 - ・ 様々な分野の講師を活用し、生徒の興味・関心を高める講演会の実施
- 「探究的な学び」の発信
 - ・ 在校生の視点を生かした学校パンフレットの製作、学校説明会の実施
- 3年間の取組と成果を踏まえた教育課程の編成
 - ・ 「探究に係る学校設定教科」の工夫・改善による教育課程の編成

【課 題】

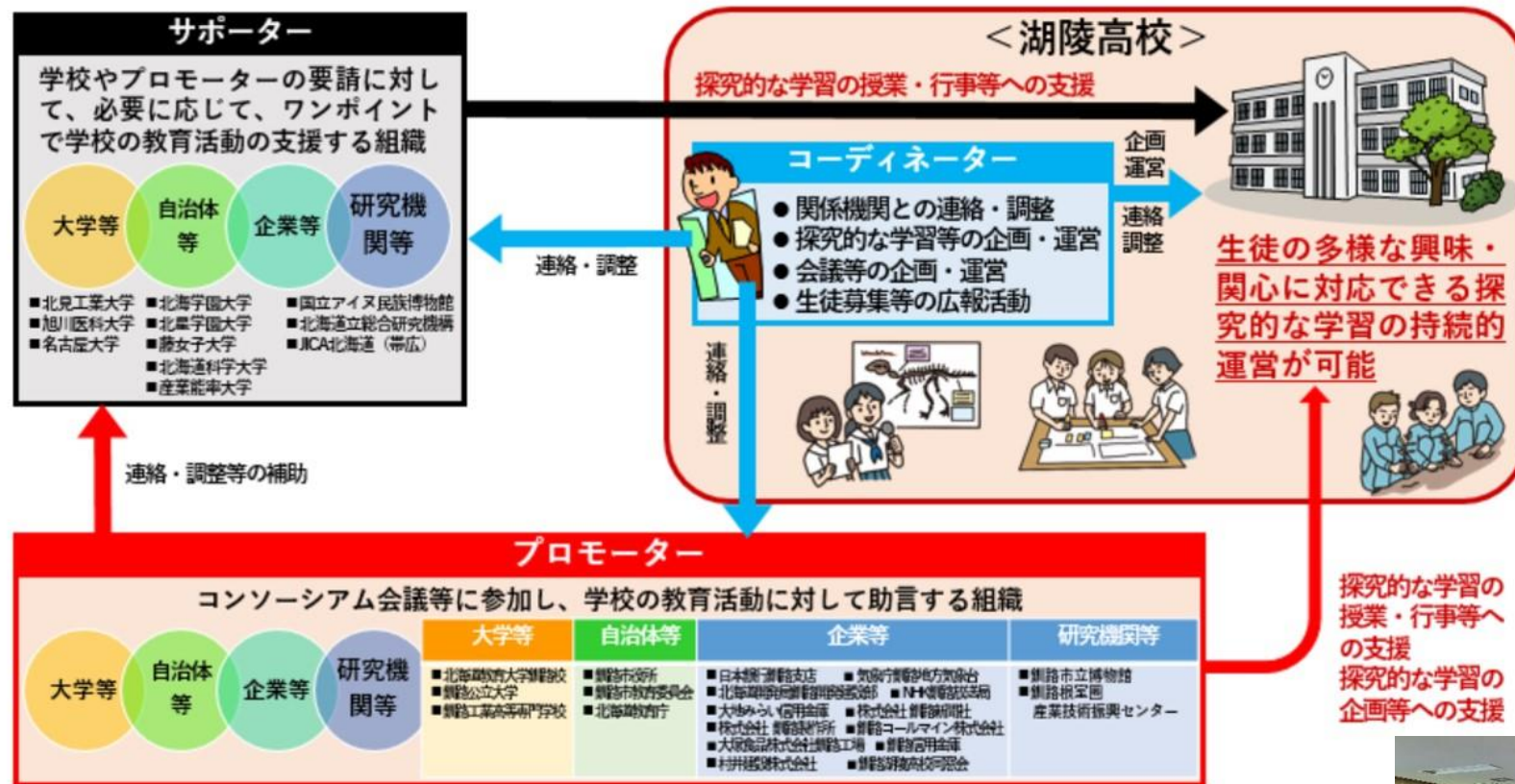
- 国内外の高校と大学等の連携
 - ・ 個別の探究活動と関係機関との連携体制の強化
- 教科等横断型（PBL）授業の推進
 - ・ 年度当初に、各教科年度計画に教科等横断的な授業を取り入れた年間計画の作成と実践
 - ・ 「KQ」において、SDGsなどのテーマを定めた各教科等の横断型授業の立案
- 令和7年度以降の持続可能な体制づくり
 - ・ 校内体制整備と校内コーディネーターの業務の軽減及び育成に向けた研修体制の充実

【令和7年度の目標】 探究的な学習における持続的可能な校内体制の構築と学際領域学科における教科等横断型（PBL）授業の実践

北海道釧路湖陵高等学校

1 コンソーシアム「チーム湖陵」のその後

コンソーシアム「チーム湖陵」



コンソーシアム会議
(R7.6.19)の様子



令和7年度
SSH事業に引き継ぎ再登録

コンソーシアム会議を開き
再スタート

2 持続可能な校内体制の構築

組織の改組と「校内コーディネーター」の指名

令和4年度・5年度 探究科設置準備委員会

委員長：副校長

委員：教務部長、進路指導部長、SSH推進部長、外部コーディネーター事務主任

改組

令和6年度～ 文理探究科推進委員会

委員長：教務部長

委員：進路指導部長、SSH推進部長、外部コーディネーター、校内コーディネーターSSH推進部員、教務部員

校内コーディネーター指名

企画・準備から実践・運営に構成員と体制を改組

● 校内コーディネーター（CN）の指名

地理歴史科教諭（教務部）、地域教育コーディネーター養成講座修了（島根大学）、元公営塾塾長

今後の課題

- 外部CNの人件費は令和6年度限りであること。
- 校内CNについては、「働き方改革」の観点から、業務（授業）の軽減が必要であること。
- 校内CNについては、人事異動等を踏まえ、業務の継続性から複数名配置する必要があること。



探究活動発表会(R7.7.18)の様子
(釧路湖陵高校ホームページより)
<http://www.koryo946.hokkaido-c.ed.jp/zen>

（令和6年度「新時代に対応した 高等学校改革推進事業」指定校発表会発表資料を基に作成）

令和7年度

普通科改革支援事業において
構築した校内体制を
SSH事業に継承

SSH推進委員会

委員長：SSH推進部長

委員：教務部長、進路指導部長、保健部長
関係分掌部員、関係教科主任
校内コーディネーター

3 教科等横断型（PBL）授業の実施

教科横断型のPBL授業の推進に向けた校内研修の実施

PBL授業とは？

日本語では「問題解決型学習」「課題解決型学習」などと訳される勉強法です。生徒が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習方法のことで、湖陵では、SSHと普通科改革の両輪で、「教科等横断型」で取り組むこととしています。

昨年度の取組

- 「教科書を見ながら連携できる授業を考えよう」

実践1（7月）「小論文」（SS情報と論理国語）

第2回（9月）

- 研究授業と研究協議の実施

実践2 全教員が取組（全員が最低1回）

第3回（3月）

- 実践の成果と課題の明確化



横断型PBL授業の理解度



生徒アンケートの結果から



学際的・複合的な学問分野の学びを実現

（令和6年度「新時代に対応した 高等学校改革推進事業」指定校発表会発表資料を基に作成）

令和7年度

北海道教育委員会BRIDGE構築事業

「教科等横断」推進プロジェクト

探究型学習実践事業

授業等研究セミナー

道東ブロック研究授業実践校

地理歴史科×理科

（地理総合×物理基礎）

Ⅱ 令和4年度～6年度指定校の現況について

北海道大樹高等学校



【基本データ】

- 全日制 生徒数82名
- 令和5年度入学生まで 普通科
- 令和6年度入学生から
地域社会学科として「地域探究科」(定員40名)設置
- 学校設定科目「地域デザイン」
 - ・第2学年において2単位、第3学年において1単位実施。
 - ・育成を目指す資質・能力に関する方針：共生・共創
 - ・地域の多様な産業の現状と課題を理解し、自身の生活との関わりについて考える。
地域の課題について台湾大樹区及び義守大学との交流から、広い視点で地域への理解を深める。
地域の課題解決に向けた取組を仮説検証し、成果を発信することで地域の発展・活性化に貢献する。

【北海道大樹高等学校】地域社会学科（令和6年度地域探究科設置）

【地域探究科設置の目的】

- 地域共創・共生社会の実現とそれに必要な資質・能力を育成すること
- 「総合的な探究の時間」など探究的な学習の充実に向けて牽引・先導する役割を担うこと

【特色・魅力ある取組】

大樹スタンダード

ユニバーサルデザイン及びダイバーシティ、インクルージョンによる授業改善

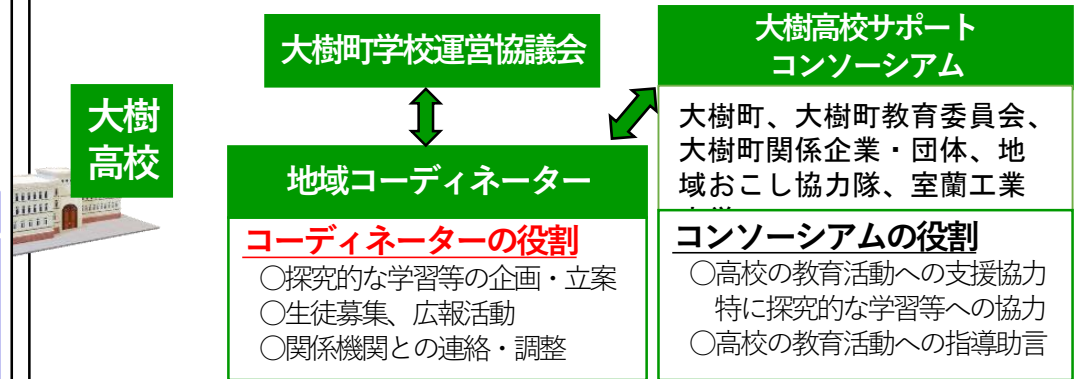
大樹学PLUS

総探と台湾国際交流を核とした多様性・共生社会の理解

大樹高STEAM

室蘭工業大学等との連携や町内関係企業との連携によるSTEAM教育の推進

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】



【令和6年度の目標】

- (1) 新たな学校設定教科・科目を配置した教育課程を編成
- (2) ICT環境を活用した、学習者主体の個別最適化学習体制の確立
- (3) **地域の異校種と連携した「大樹学」における小中高一貫キャリア教育プログラムの完成**
- (4) 各学年の探究学習を接続し、3年間を見通した探究学習のプログラムの完成
- (5) 地域社会の持続的な発展や価値の創出に向け、生徒がより主体的に関わる探究学習への転換
- (6) 生徒による地域課題の解決方策等についての町への提言を踏まえ、高校生が地域が協働して町づくりに参画することにより、地域の活性化及び地域との共創の進展
- (7) 室蘭工業大学等との高大連携プログラムの推進による教科等横断的な学習の改善と発展
- (8) JAXAのエアロスペーススクールのプログラムに参加生徒のほか、プログラムの一部を他の生徒にも提供

【取組状況】

○達成
△一部達成

- (1) ○
- (2) ○
- (3) ○
- (4) ○
- (5) ○
- (6) ○
- (7) ○
- (8) ○



【成果と課題】（○成果、●課題）

- 普通科改革支援事業についての町や関係者の理解の促進
- 校内における組織的な推進体制の整備
 - ・地域探究委員会の定期的な開催、計画の推進
- 生徒の学校や地域を愛する気持ちの表出、地域との共生・共創の実現
- 地域に係る探究活動後に実施した評価アンケートにおける満足度の上昇、又は高い数値での維持
- 生徒が進路について考える意識の向上と進路実現
 - ・高校入学前に比べ、高校卒業後の進路についてより真剣に考えるようになった割合 100%
 - ・生徒の進路希望の進路実現率 100%
- 総合的な探究の時間及び**「地域デザイン」の系統的な計画づくりと実践による改善の継続**
- 本校におけるさらなる授業改善の取組の推進
- 持続可能な組織づくり（属人化しない、引継ぎができる、見通しをもった人材育成、後継の育成など）
- 進路実現率100%の継続

1 学校設定科目「地域デザイン」の実践

大樹町の4分野について学ぶ

→地域の魅力や新たな課題への
気付き
→分野別グループ探究へ

北海道大樹高等学校 普通科地域探究科通信 令和7年度第1号 令和7年(2025年)5月16日

地域とともに
教科書では、学べないことも。
北海道大樹高等学校
〒089-2155 広尾郡大樹町緑町1番地
Tel 01558-6-2063 FAX 01558-6-2868
HP <http://www.taiki.hokkaido-c.ed.jp>
文責 校長・高橋 豊

2年「地域デザイン」～大樹町長からの講話

5月9日(金)に実施しました。本校は地域探究科の特色として、教育課程に学校設定科目「地域デザイン」を2学年2単位、3学年1単位を設定しています。地域探究科初年度の2年生は、まずは地域の多様な産業の良さを理解し、生活との関わりを考えていきます。

今回、その活動に先立ち、大樹町の町づくりについて理解を深めるため、大樹町長 黒川 豊 様を本校にお招きし、講話をいただきました。

講話後、生徒たちは黒川町長にいろいろな質問を行い、大樹町の現状や産業、町づくりの課題など、さまざまな角度から理解しようと努めていました。



2年 地域デザイン「商業・観光」分野について知る

5月19日(月)・20日(火)に実施しました。初日は、大樹町役場職員、地域おこし協力隊、大樹町移住コーディネーターから、「観光PR」「観光振興」「脱炭素社会」「地域公共交通」「移住定住」「SNS情報発信」の6つのテーマについての講話をうかがいました。2日目は、大樹町に移住してきた方6名(地域おこし協力隊、たいきまちづくりラボ)との座談会と「MEM・オープン・リサーチ・キャンパス」の施設見学(フィールドワーク)を行いました。

「地域探究科」の大きな特色となるのが、「地域デザイン(2年2単位・3年1単位)」というこの科目です。生徒も教員も試行錯誤しながらの展開となりますが、それも「探究」。失敗することを恐れず、生徒にとって価値ある時間、経験となるよう、今後もがんばります。



貴重な学び! 2年・地域デザイン「航空・宇宙」

5月26日(月)・27日(火)に実施しました。初日は、大樹町役場企画商工課航空宇宙推進係長から、宇宙のまちづくりとそのPR方法や航空宇宙人材の育成に関する講話をうかがい、お話をまとめたグループワークを行いました。2日目は、フィールドワークとして、「大樹町宇宙交流センターSORA」、滑走路、「北海道スペースポート(LCI・LCO)」を見学しました。SPACE COTAN(株)、インターステラテクノロジズ(株)それぞれの担当者からも事業や取組説明があり、生徒にとって大変貴重な学び、経験、時間となりました。関係の皆様、ありがとうございました。



2年「地域デザイン」～農林水産業を学ぶ・考える

7月1日(火)と10日(木)の2日間、8時間で、2年生は「地域デザイン」において、大樹町の農林水産業について学びました。初日は、グループワークで、タブレットを用いて他の自治体の事例を調査したり、講話で知りたいことや聞きたいことを整理したりしたうえで、行政の視点から、大樹町役場の農林水産課長、水産係長、畜産係長から大樹町の農林水産業の全体について、酪農について、水産業について講話をいただきました。



2年「地域デザイン」～教育について学ぶ・考える

7月11日(金)2年生は「地域デザイン」において、教育について考える授業を行いました。言うまでもなく、学校の主人公は「生徒」です。その生徒自身が、学校や教育の中心であることを認識し、教育が担う役割について考えてほしい、さらに、学校の校則について、具体的に自分たちができるアクションをイメージしてほしいことを目的としました。

最初に、NPOカタリバが製作した「校則を見直すプロセス」、「そもそルールとは」という内容の配信動画2本を視聴し、ルールや対話についてのディスカッションを行い、その後、個人で見直すべきと感じているルールをあげてもらいました。

次に、教員を交えてグループセッションを行いました。なぜルールは必要か、変えてはいけないルール(変えるべきルール)は何かといった、意識化されているものから、すでに無意識化されている自校の校則について、本音を交えて意見を交換しました。



教員は2学年団の5名が入りました。生徒の意見を遮ったり否定したりしないよう心掛け、生徒の意見を受け止めながら、それぞれの教員が自分の考え、思いを生徒に投げかけていました。校則の在り方については、世の中でも注目されています。本校にもホームページに記載しているとおり、見直し手順があります。今後、何か展開があるのでしょうか。安心・安全な学校のために。

2年「地域デザイン」～福祉について学ぶ・考える

今回は福祉分野について学びました。高齢者福祉に関わる方々(大樹町社会福祉協議会、ボランティア経験者等)からお話をうかがい、福祉に関する取り組みや課題についての理解を深めました。これまで、地域の多様な産業について理解を深め、生活との関わりについて考える機会を設けてきましたが、このシリーズは最後となります。

後期では、今まで学んだこと、考えたことをもとに、分野別グループ研究を行う予定です。



2 地域コーディネーターの役割

学校と地域の教育資源をつなげる人材

- ・ 地域で構築したネットワークを学校現場に還元
- ・ 総合的な探究の時間、学校設定科目「地域デザイン」等の企画・運営
- ・ 職員室に自席があり、週2～3日、授業のあるタイミング等で在校
- ・ 費用については今年度から町が負担



高校CN人物像 #2

神宮司 亜沙美さん
北海道大樹高等学校
ASAMI JINGUJI

総合的な探究の時間のカリキュラム作りを
手掛けた高校CNに話を聞いた。

本校では今年度から、高校が1校ずつある町で、1つの町で運営されている。本校から卒業生や教員が戻り、町に貢献している。本校から卒業生や教員が戻り、町に貢献している。本校から卒業生や教員が戻り、町に貢献している。

地域で構築してきたネットワークを学校現場にも還元。
自身の企業経営や地域での活動など、
兼業による強みを生かし、
学校とともに地域づくりに携わる

地域で構築してきたネットワークを学校現場にも還元。
自身の企業経営や地域での活動など、
兼業による強みを生かし、
学校とともに地域づくりに携わる

地域で構築してきたネットワークを学校現場にも還元。
自身の企業経営や地域での活動など、
兼業による強みを生かし、
学校とともに地域づくりに携わる

1日のスケジュール

08:00 出勤

08:30 授業参観、生徒指導、授業評価などに関する打ち合わせ

11:00 授業参観、生徒指導、授業評価などに関する打ち合わせ

13:00 授業参観、生徒指導、授業評価などに関する打ち合わせ

15:00 授業参観、生徒指導、授業評価などに関する打ち合わせ

16:45 退校

ASAMI JINGUJI

北海道大樹高等学校

高校CN活用事例 #2

北海道大樹高等学校

高校、そして町の未来を共に考え挑戦する
パートナーとして必要とされた高校CN

大樹町唯一の高校として、地域からの信頼や協力向上に對する大きな期待が寄せられている北海道大樹高校。町の豊かさを地域資源をフィールドとした学びの環境や地域連携の土壌を造り出し、さらなる探究的な学びの充実に向けた体制構築を行うためのキーパーソンとなったのが高校CNでした。

Step 0 高校CN人材の出会い

Step 1 学校経営の計画立案

Step 2 高校CNの人物像の確立

Step 3 高校CNの確保と対話

Step 4 高校CNの受け入れ

北海道教育委員会
委員
河村 真一郎さん

大樹高校校長
橋本 正樹さん

大樹高校
地域研究委員会
リーダー
角田 健太さん

高校CN人材の出会い

高校CN人材の出会い

高校CN人材の出会い

学校経営の計画立案

高校CN人材の出会い

高校CN人材の出会い

高校CNの人物像の確立

高校CN人材の出会い

高校CN人材の出会い

高校CNの確保と対話

高校CN人材の出会い

高校CN人材の出会い

高校CNの受け入れ

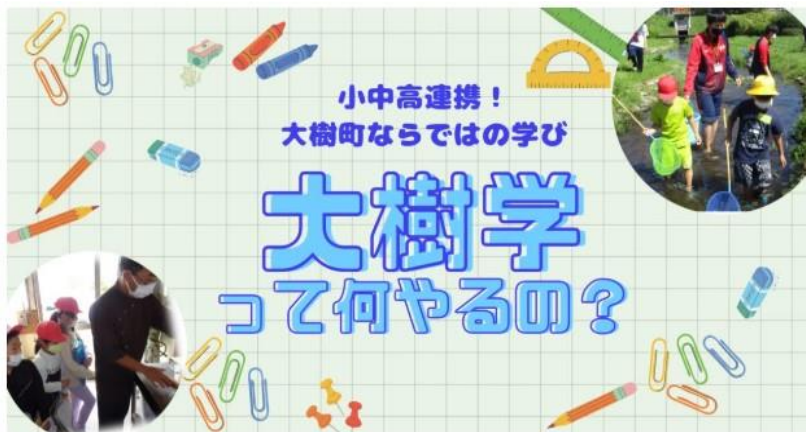
高校CN人材の出会い

高校CN人材の出会い

3 「地域ならではの」の学び「大樹学」

小中高一貫のキャリア教育

- ・地域の自然や人材を活用した学び
- ・「小中高連携教育推進委員会」として各学校の管理職が毎月打合せ
- ・「大樹町教育の日交流会」で各校種の取組を発表予定



小中高一貫の「大樹学」の取り組みの一部をご紹介します！

(大樹町公式noteより) <https://taiki-town.note.jp/>

小中高連携教育推進委員会 第1部会 2025年3月発行 No.4 「大樹学」NEWS 小中高が連携し、地域に根ざした学びでキャリアを育みます！ ～ 小・中・高 今年度の振り返り ～

【小学校】

大樹小学校では、今年度も全学年において地域のみなさんにあたかな協力頂き、大樹学について学習を深めることができました。一例として、5年生では、大樹漁業協同組合、女性部の方を招いてサケの食育を行いました。最初は、映像や定置網のモデルなどを参考に、鮭の漁についてお話を聞いたり、実際に鮭の捌き方を間近で見て調理を行ったり、オス・メスの見分け方を教わったりと、学びも食も充実した時間となりました。

今後も、大樹の豊かな自然や地域の方々の特色ある営みを学ぶ中で、ふるさと「大樹」について考え、さらに、その一員としてのあり方を考え続けられるよう、教育活動に取り組んでいきたいと考えています。

【中学校】

大樹中学校では、1学年で「モデルロケット製作および発射」「野外学習で火起こし体験」「町長講話」「JAXA宇宙講座」「高校調べ」「地域おこし～大樹町を知る」を実施しました。2学年では、「職業体験学習」「宿泊学習で海洋体験」「地域おこし～大樹町を考える」「しあわせ会との交流」を実施しました。3学年では、「地域おこし～たいまつ作り」「雪印メグミルク食育出前講座」「保育実習」「大樹高校体験入学」「防災授業」を実施しました。

全学年共通して取り組んでいる「地域おこし」では、地域の方を講師として招き、直接話を聞いたり、清流祭りのたいまつを実際につくったりするなどの活動を行いました。ふるさと大樹について考え、よりよい町づくりに生徒が主体的に参画することができました。

【高校】

令和4年度から文部科学省の普通科改革支援事業の指定を受け、令和6年度、普通科の新学科である北海道では唯一の地域探究科の設置が認可されました。

学校の外へ飛び出し、大樹町の豊かな産業や人材資源をフィールドに、自身が関心をもつ地域課題について探究活動に取り組みました。さらに、「高校生議会」の議会の深めるため、黒川町長、沼田教育長に来校していただき、懇談会を実施しました。

台湾へ見学旅行に参加し、現地で様々な人と交流し、日本との文化の違いを体感しました。特に、義守大学の学生との交流は、事前にリモート交流を行い、現地では自主研修で共に行動しました。

北海道宇宙サミットに宇宙ボランティアサークルが参加しました。全国、海外からの参加者もあり、宇宙産業の取組や課題等を聞いたり、コミュニケーションを取る事ができま

地域の自然や人材を活用した学び「大樹学」

大樹小学校

※活動例

- 1年 → 町立図書館利用学習、スペースイラストコンテスト参加 など
(歴月川鮭のぼり見学、給食センター見学は今年度未実施)
- 2年 → 町内探検、消防署学生会、日昭牧場見学 など
- 3年 → 郷土資料館見学、農園活動、スペースイラストコンテスト参加 など
- 4年 → 史跡めぐり学習、中島路農祭体験学習、林業間伐体験
雪印メグミルク大樹工場見学 など
- 5年 → 漁業体験学習(地引網)、ペットボトルロケット発射体験
福祉体験学習(介護・高齢者体験)、サケの食育 など
- 6年 → 宇宙交流センターSORA見学、トーチカ・堅住居見学
スキー学習、室蘭工業大学との連携授業 など

大樹中学校

- 1年 → モデルロケット製作及び発射、野外学習で火起こし体験、
町長講話、高校調べ、地域おこし～大樹町を知る
高校調べ、地域おこし～大樹町を知る
- 2年 → 職業体験学習、宿泊学習での海洋体験、地域おこし～大樹町を考える
しあわせ会との交流
- 3年 → 地域おこし～たいまつ作り、雪印メグミルク食育出前講座、
保育実習、大樹高校体験入学、防災授業

大樹高等学校

- 1年 → インターンシップ、地域ボランティア活動 など
- 2年 → 見学旅行・台湾義守大学生との交流活動 など
JAXA大樹エアロスペーススクール参加
- 3年 → 地域講話、地域探究活動、高校生議会、学校給食×ニュー考案
進路強化研修(町内企業等模擬面接) など

ふるさと大樹町を愛し、
大樹町の将来を支え、大樹町を応援する社会人へ！